

玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（素案）地域説明会
（全学校区） 会議録（概要）

■日 時 令和6年11月2日（土）10:00～11:45

■場 所 すこやかセンター

■出席者 柴田市長、多田教育長、小崎次長、琵琶教育総務課長、的場学校教育課長、清山教育総務課参事

■参加者 29名（保護者 11名、地域 18名）

1 開会

市長あいさつ、教育長あいさつ

2 説明

「玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（素案）」の内容のうち、全学校区に該当する部分を資料に沿って説明。

3 意見交換

参加者1：適正規模・適正配置の検討委員会の議事録について見てますが、小学校区に関しては、中学校区に合わせてやるには無理ではないかという意見も出ているし、小規模小学校を残すということはできないのかという案もでてます。実際、今、築港小は小規模校学級になっていて、宇野小・田井小はけっこう大規模な学校になっていて、それに対して、保護者が小規模か大規模か選べる現状ではあるのですが、当然このまゐったらそれも出来なくなっていったときに、小規模学級に行きたいという保護者もある程度いるとは思えます。その選択肢が無くなっていくと当然、これから転入してくる人も減るといふ懸念があります。小学校についてはその点でまだ早いのではないかと、もうちょっと検討委員会の議事録にも出ているように、ここに関してはもう少し時間をかけて、中学校に合わせた形ではない方がいいのではないかと考えています。

それと通学に関してですが、この3キロという根拠はなんでしょうか。たとえば昨今ですと夏場6月や10月になってもまだ、朝通学する時間に30度超えてるといふことも増えてきています。小学校高学年の子なら3キロくらい歩けるといふと思いますが、たとえば幼稚園保育園を卒園したばかりの子が30度を超えている状況で、2キロ3キロを問題なく歩けるのかかなり疑問があります。小学校は1年生から6年生まで幅広く、個々の体力にも差がある中で、それを全部一律に考えるのは無理があるのではないかと。スクールバスにしても、単純にこの距離だからこう、よりは、たとえば低学年の子はこの距離から、といふふうな差異も必要では無いかと考えます。

事務局：前半の部分にはご意見として承ります。通学距離3キロの根拠ですが、検討委員会の答申では、小学校の徒歩通学距離は2キロと答申をいただいております。ただ、国の基準は小学校4キロとされております。現在、遠距離通学でバスを利用している小学校の通学距離や発達段階の体力作りの観点から3キロとさせていただいているのですが、地域説明会の中で、小学校1年生では歩けないとか、夏の暑さが大変だとか、かなり意見をいただいておりますので、修正までに教育委員会でもう一度検討したいと考えています。

参加者2：言いたいことは3つあります。子どもが今後築港小に入るかもしれないということで、築港小の前に家を買ったのですが、廃校になるということで驚きを隠せず、さらに宇野中に入るということで今後子どものことをいろいろ考えています。今回私が言いたいことは、人口減少についてですが、昨年出産したときに思ったのが、そもそも

玉野市に出産できる産婦人科が無い。今回の趣旨とは違うと思うんですが、それがまず子育てをする方としては問題だと思っています。玉野市に無いので、岡南産婦人科まで行くのに車で40分かかります。それも妊婦は自分で運転できないので夫に手伝ってもらってなんとか産んで、さらにこの子が小学校に入ったときに、築港小がなくなり宇野小に入るということで、グーグルマップで見ました。大人の足で40分（教育委員会にて、築港小から宇野小を調べたところ、徒歩約20分）かかるんですよ。それでバスが使えない。大人が40分かかると子どもの足でどのくらいかけて通わないといけないのか。負担、子どもに対しても負担だし、自分が送迎するとしたら親にとっても負担だし、第2子をつかって子どもに負担をかけない方がいいのか、本気で考えています。出産もそうですが、育児で車が無いといけない、そういう負担が目に見えて感じてきちゃって、これらの問題を解決できるのは、正直行政だと思っているので、市や教育委員会の方にその辺りのことをまず考えて欲しいと思っています。

二つ目は、少人数のメリットということで、築港小の学区に住んでいますが、先輩方に小学校どうですかと聞くと、少人数学級のメリットがあると聞いて、学区があるようで無い。たとえば通っている小学校でいじめられたとき、親も子どもも悩むんですけど、となりの小学校にすぐ編入出来るということで、そうやっていじめっ子いじめられっ子たちは自分が合う場所を探せるということが今現在あるらしくて、そういう意味では子どももエスケープ出来るらしくて、メリットに感じているということで、そういう話も聞いています。今保育園にいらっしゃる我が子の先生も、今、団体教育ではなくて個人を見ながら教育するっていうところにきているから、また団体教育に戻るのはどうなのかなという意見も聞きまして、そこに関しても、私もどうなのかなと思っています。

三つ目は、今回の小中学校の統廃合について事前にアンケートをとられたという保護者の方からお話を聞いたのですが、小学校の保護者の方で、正直おれら関係ないしという話を聞いてしまったんですよ。それで思ったのは、去年出産してアンケートは一切なかったんですね。この話って5～6年後の話だと思うんです。少なくともその子どもたちが小中学校に上がる世帯の親の話をまずは聞くべきだったんじゃないかと思って、たとえば、保育園や幼稚園の通っているところへのアンケートだとか、市へ出産届けを出した世帯へのアンケートだとかを行政で、本当にそこへ通う世帯へアンケートをとるのが現実的なのかと思っていて、それらが無い時点で未来の声をつぶしていると私は思っています。その話がない時点で今後の話ってできないと思うんです。少なくとも未来のことを考えるための時間が絶対必要だと思っていて、これは私は急ぐべきでは無いと思っています。なぜそんなに急ぐ必要があるのか、広報たまもそうですけど、それに入っていた市議さんの話だとかをいろいろ読んでいて、急ぐべきでは無いと言っている方もおられまして、少なくともこの会場にいられている方は今後の小中学校のことをすごく考えている方だと思うので、そういった方が未だにいる。今回最後の説明会だと思うのですが、そういった方の意見をちゃんと聞いて、そこで討論をすべきだと思っています。

事務局：アンケートですが、小学校・中学校の保護者以外にも実施させていただいており、学校に上がる前の保護者さんにもお伺いしております。

距離が遠くなるということは、不安もあるかと思いますが、安全に通ってもらいたいということもあるかと思いますが。これまで地域説明会をやってきたなかで、距離が遠くなるということはずごく不安に思われてます。3キロというのはどうなのか、低学年は3キロ通えるのか、炎天下の中、また危険な場所があるのではないかと話を聞かせていただいています。これまでの会場でいただいたご意見も真摯に受け止めて、通学路に関しては特に考えていきたいと思っています。

少人数についてですが、我々も少人数の良さ、メリットは十分わかっております。実際に現場の様子も見ております。先のことを考えたときに、子どもたちにとって何が必要でどうあるべきかと検討した結果、適正規模化

を考えて進めているところです。

先ほど、もし何かあれば転校という方法があって、それで解決できるというお話がありました。確かにクラス替えが無く、その学校で何かあったときに、指定校変更という教育的配慮でそういった方法もなくなるはないです。ただ、そこは非常に難しく、本当は学校は変わりたくない、けれども転校せざるを得ないという方も実際にいます。これは非常に容易ではなく、やむを得ずというところなので、我々としてはできれば同じ学校で解決しながら少しでもその学校でより良い学校生活を送れる環境にしたいと考えております。

参加者 3：まだ先の話になるとは思うのですが、再編準備委員会のメンバーですが、適正規模委員さんが中学校区に一人だったと思います。中学校区に一人だと、たとえば玉地区だと玉小と玉原小なので、地域によっても違うと思うんです。だから、人数が多ければいいというものではないとは思いますが、中学校区で区切って地域の代表、保護者の代表というのは、少し考えてみてもいいのかなと思います。

事務局：まだ詳細な人数を決めている訳ではないのですが、それぞれの学校から保護者の代表に出てもらおうと考えております。

参加者 4：学校施設の維持ですが、21校のままだと多額の経費がかかるが、統合することによってそこにお金を使うことが出来るということです。スクールバスとかどれくらいかかるかわからないのですが、これから再編委員会が設置されて、スクールバスの規模が増え、お金をそっちに回すことが出来るということですが、そういうのはまだ変更の余地というか、拡充の余地はあるのでしょうか。なぜそう思ったかという、私は和田3丁目から玉野高校に通っていたのですが、子どもが、宇野中が玉野高校に近いので同じ距離を子どもが行くのかと思うと、私は部活でサッカーをしていたのでなんとも思わなかったですけど、距離が長いなと思ひまして、変更の余地があればいいと思い質問させていただきました。

事務局：バス通学できる距離については様々なご意見いただいておりますので、修正案までに検討させていただきたいと思ひます。

参加者 5：通学路に関して、3キロ圏内というところですが、実際9月頃に祖母が校外学習ということで2年生と3年生の子どもと近くの工場について行ったときに、胸上小学校手前の工場に行ったのですが、それだけでもみんな顔を真っ赤にして、すごく疲れていて、帰ってきたら疲れきってクラスで寝ている状態だったと聞いています。もしこの計画が実現した場合、毎日胸上小学校まで通うようになったときに、非現実的ではないかと思っています。毎日へろへろになるような距離を歩いて、行けたとしても疲れ切って授業が受けれる状態じゃ無いのではないのかと、寝てしまったりとか、逆に教育の質向上ではなくて低下になるという懸念があります。保護者の中で意見が出たのが、今まで山田小学校までは通っていたので、そこからバスを出してもらおうとか、もうちょっと改善案を考えないと早急すぎるのではないかと感じました。子どもが低学年ですが、親たちが不安になっているので、低学年の子どもたちも不安がっています。統合するの、どうなるの、と子どもが不安に思っています。

もう一つは、統合した場合、30人クラスになる予定ですが、統合してすぐは子どもたちも不安な状態で過ごすと思うんです。その時に先生の方がそういうところも見ながらというのが、今10人ちょっとのクラスで一人の先生で十分に見きれているかという不安なところもあるので、統合したことによって30人を一人の先生で見ることになるということに不安を感じます。他者との交流がいいことはわかるんですが、そこに持って行くためには、まずは教員の質の向上が先に重要というかたちで、とても不安な気持ちでいっぱいです。去年初めて子どもが1年生の時に、保護者会の後にこの話を聞いて、いつかは統合するんだろうと思っていたのですが、気づいたら令和9年には統合するという話になっていて、まさかこんなに早く統合になるとは思っていなかったもので、もうちょっとこちらの意見も聞いていただきたかったのと、小学校については早急すぎるのではないかという意見があ

ります。

事務局：距離が3キロは長いということもありますし、小さいお子さんが通うということで、場所によっては坂があったりするので、道路の舗装の状態とかも、しっかりと考えて行きたいと考えております。

一緒になることで、一クラスの人数、児童・生徒数が増えると不安は十分わかっております。これまで10人だったクラスが30人になって、果たして先生がこれまで通り見てくれるのか、そういった不安が保護者も子どもたちもあるというのは十分わかっております。ただ、今もそうですが、1クラスが10人であろうが30人であろうが、教員は各クラスの子どもたち一人一人を丁寧にしながら、対応はしているところです。とはいえ、十分でないところもあり、教員の資質向上は非常に大切な部分ですので、こちらもしっかり指導を図っていきます。引き続き各学校各クラス、それぞれ先生は目の前にいる子どもたち一人一人を大切にしていって、これに変わりはないですが、しっかりそういったことが出来るように、研修や指導で教員の資質向上を図るとともに、さらに実態に応じて、支援員とかサポートスタッフの配置も考えて対応しています。子どもたちや保護者が安心して学校に通えるようにしっかり努めてまいります。

参加者6：今はやっていないですが、PTA や学校評議委員会の活動として長く関わってきてすごく感じたことです。今聞いていて思ったのが、14ページの適正規模化の目的、目指す教育ということが書いてありまして、子どもたちが対話や議論を通じて他者と関わっていくということを言われていました。学校の校長先生や先生とお話しして、もっと難しい議論じゃなくても子どもたちが自分の意見として思ったことを語り合える場があったらいいなということをしていました。その時に必ず校長先生が言われていたのが、本当はこうしたいんです、でも時間が無いんです。ということ言われていました。何か問題が起きたときでも、子どもたちが感想文を書いて学校に提出することはあっても、それを話し合うことが出来なかったことがとても残念だったということ話したら、とにかく時間がないんだ、忙しいんだということ言われていて、それを考えると、そういう教育が出来ないのが、大規模校なら出来るのかなという疑問を感じました。子どもたちが少ない学校でそれが出来ないというよりも、学校として忙しい、文化祭もなかなか出来なくなってきたということ聞くと、もっと他のことに問題があるんじゃないかという気がします。何よりも子どもたちが安心して過ごせるような学べる場であってほしいし、親も安心して子育てが出来る場であって欲しいので、そういう意味では大規模校になったからといって解決できるわけでは無い問題を抱えていると思いました。

あともう一つ、学校評議委員会を通じて思っていたのは、地域と学校とのつながりというのをとても感じました。今思うと、地域の大人たちが学校を支えていると認識してしまいがちなところもあったのですが、実は反対で、学校という存在が地域を支えていたのではないかとすごく痛感しています。これからは学校評議委員会というのはもっともっと積極的な場にしていきたいんですと、中学校や小学校としても地域の人とずっと密接にしていきたいですと言われて、これからちょっと変わっていきますと言われて安心してはいたんですが、そこでこの計画だったので、私はちょっとびっくりしています。内容を読めば読むほどがっかりしてしまって、実際採算だけでは考えられないことが地域や学校ではたくさんあると思うんです。実際金融機関の支店が次々無くなって行って、地域の人、だいたい遠くまでいかなければいけないと聞きますし、いろいろなお店が無くなってきていることを聞きますとなかなか生活しづらくなっていると思うんです。反対に、学校はたとえ一人になってもその子が学んでいけるようにするというのが学校教育の良さだと思います。これからは小さい町になっていくという不安はあるのですが、小さいなら小さいなりにその良さをどうやったら生かしていけるのかと、学校は市の共有財産だから大切にしていって方向でこの計画をもっと見直して、考えてみんなで意見を聞けばそれを進めていくべきではないと思うので、そこらへんを考えて欲しいと思います。

参加者 7 : ここまでのやりとりで、先ほどの方が言われたように、説明がバラ色だと、そんないい学校ができるのかと、子どもたちが、本当にいい学校ができるんだと、ぼーっと聞いてたらそう思っちゃ説明でした。そうして伝達されていることが最終的に 11 年に完遂したときに言うようにはなっていません。1 学年複数学級になったりとか、さまざまな夢のようなことを言われてますが、なってないことはご存じのはずなんです。そしてさらにその先、子どもが減っていくということであれば、もっともっとバラ色のやり方から離れていきます。それはあきらかなのになぜか強引に押し通そうとしている。なんでこんなことになったのでしょうか。私は小学校の教師として学級担任を 38 年、退職して 15 年ほどになります。昨日の朝日新聞に大変気になる記事を見つけました。岡山県下の小中高についていじめが 8,262 件、前年比 1,539 件。1 年度 1,500 件も増えている。不登校は 5,391 件、前年 689 件増えていると。どちらも過去最高だそうです。国レベルでも小中の不登校は 2023 年度の 1 年間で 34 万 6482 人、高校まで入れると不登校は 41 万人を超えるそうです。文科省はコロナの影響と支援不足が背景にあるだとコメントしています。支援不足です。こんな状況下でも玉野の小中の学校統廃合です。五つのおかしな点があると思うので述べさせていただきます。

まず第 1 は思考が硬直化してしまっている。始まりは 2015 年に文科省が出した、公立小学校中学校の適正規模・適正配置等に関する書類があるのですが、その文書が始まりです。文科省の考える適正というものが多々語られています。彼らは正しいのは自分だということで適正の正の字を使ってしまっているんです。語るだけならいいですが、地方自治体にそうしろと迫っています。迫られた側はその取り組みをしないとと思いその取り組みを始めました。そして今こうなっています。市民にどう説明すればいいか懇切丁寧に教えてくれている手引きなんです。だから彼らが言っていることは、手引きの中に書いていることを何度も繰り返しているだけなんです。適正ということは本当なのか、その言葉は適正なのかというふうに考えることは放棄してしまっています。こうして今の状態ができました。中学校はこうしよう、小学校はこうしよう、適正という言葉を追いかけている。その結果子どもに大きな負担を背負わせることになるのは、みなさん感じておられると思います。市がこれまで取り上げてきた少子化対策なんてぜんぶ吹っ飛んでしまいます。これから先も今の状況を変えられる少子化対策ができるとは市長も思っていない。教育委員会など少子化対策の効果でこんなふうに子どもが増えていくんだということは最初に示された推計からすっぽり落ちています。減っていくのが前提になっているんです。ここは検討委員会の中でもやるべきことはこっちじゃないかということはずいぶん言われています。そして減ったとして、市のありよう、地域のありようまで変わってしまう。だから大きな不満や反発が起きるのではないのでしょうか。もっと柔軟に、玉野の実態から出発するようなそういう案を詰めないといけません。いやいや私は非常に攻撃したいこの文科省。実は先ほど案は生まれたけどもいいことが書いてあったんです。6 行目、統合を選択しない場合、学校当該地域コミュニティの存続や発展の中間的な位置づけで地域をあげて充実を希望する場合など、先ほど地形の問題とも言われましたが、こういう場合には小規模校は残してもいいんだと、ただ残すのではなく小規模校のメリットの最大化策をとれ、少人数を生かした指導の充実をしなさい、ということを行っている。とてもまともじゃないですか。デメリットは緩和しなさい。切磋琢磨する態度や向上心を高める方策をとりなさい。と書いてある。小規模校だったらちゃんとした教育ができないとかこの方たちの言う切磋琢磨とか、切磋琢磨が出来なくなるとは書いていない。小規模校でも切磋琢磨することは出来る。ここを玉野の市教委は読み起こしたのか、あえて読まなかったことにしているのか、前の部分だけで推進してきているのか。広報たまの 9 月号に、子どもたちに求められる力の一つに、自ら考え判断し表現することで、問題に積極的に対応し考える力、これが子どもたちに求められる力だと書いてある。私は教育委員会に言いたい。今の言葉を自らに問いなさい。本当に自分たちで考えたのか。だいたい、切磋琢磨という言葉は私はあまり好きではありません。これは端的

に言うと、競争をあおることです。あおられて頑張る子どもは確かにいるでしょうが、みんながみんなそうじゃないでしょう。人と争うことを嫌い、人に想いをよせ、人とともに歩む、そういう学校生活に価値を見いだす子どもや大人はたくさんいると思います。私は団塊の世代です。学力テストに狂ったお向かいの香川県の出身です。不正で有名になった学校です。そこで常に競争にさらされてきました。期末テスト、中間テスト等あると、中央廊下に成績上位者の名前が書いた大きな紙が貼り出される。そういう中で生活をしてきたんです。自分の心もずいぶんとそうした影響を受けていると思います。そんな人生を大切な子どもたちに味わわせたくは無い。人を順番づけることを狙いとした学力テスト、合併をすると学力の状況がわかって、学力が低いからどうのこうのと知事さんをはじめいろいろな方が言われるけど、あれは順番に並べてるだけなんです。学力が低いからどこがどうなのかと分析して、本当に学力をつけるために何が出来ないのか追求されていないんです。だから現場の教員もよくわかっていないんです。ひどい場合には、似たような問題を前の日にやっておいて受けさせる。とんでもない、昔香川であった状況が今、私たちの周りにある。そんななかで子どもたちを競わせる学力テストというものは私は大嫌いです。

続いておかしな点の二つ目です。今回の取り組みの手順の強引さ、非民主的どころではない。反民主的なやり方がとられていると思います。まず一番に草案というものが作られました。いろいろ案があつてやっかいです。この草案に五つのパターンが示されて、これが新聞にも発表されました。新聞はうまく使われたわけですが、自らの取材でどうのこうのではなく、これはリークされたものだと思いますが、そしてその段階で説明会もいろんなところである。こうした中で、私はこの玉野の地区で、玉原 10 年、玉小 7 年勤めましたが、自分の教えた子どもたちのお母さんたちに何人も会って話をしました。多くの方が、先生の言うことわかるけど、でももう決まってるんでしょと言うんです。それは違う、決まっていないから一緒に考えましょうというふうにやってきたんですけど、今日の参加者を見ると、非常に少数で、これはずいぶんと彼らのやり方に問題があるんですけど、これで説明会がこの地区終わってるんですというふうにも思ってもらったら困ります。草案ができて検討委員会が始まりました。検討委員会の会議録を読まれた方もいましたが、私は全部読みました。とってもおもしろい。物語性があつて、これは劇化できるなというやりとりもありました。頑張った委員さんには非常に頭が下がる思いです。でも結果としては検討委員会は委員長の采配のふり方等によって、完全に市教委の求めるものをそのまま出している。でも検討委員会の方はそれだけではまず、わざわざ、付則とかたちで自分たちの気持ちを表したんですね。その答申が去年の 12 月 26 日に出了。市教委に渡されたんです。それからちょうど 6 ヶ月の、翌年 6 月 26 日に素案ができました。教育委員会が、検討委員会の答申を受けて作りましたと言っているやつです。その答申を受けて、どれほどの討議をして素案というものになったのかなと。調べてみるとたった 3 回しか教育委員会を開いていない。しかもなぜかその教育委員会の会議の中身は非公開です。市民に見せない。ある方が開示請求というものをやりましたが、真っ黒けのいわゆるのり弁で返ってきたそうです。よほど何か隠したいことがある。こんなやり方でできた素案を後生大事に抱えてみなさんの前で説明しているわけです。説明会も実施へのやり方も大きな問題があります。なぜ私はこっち、保護者はあちら、傍聴席があつて、傍聴の方は発言できないと言われ座っておられる。たったこれだけしかいないのだから、今まで何度も発言した方でもどんどん発言すればいいと思うんです。そういうのが話し合いでしょう。ところがそうはなっていない。文科省でさえ、可能な限り多くの声を聞けと言っています。検討委員会の答申には、保護者・地域住民・子ども、関係者の声を聞いて、意識の啓発をしてくださいとわざわざ提言している。こういうあたりはともに無視されているんです。あるいは軽視されているんです。9 月議会でたくさんの良識ある議員さんが、しっかりと市民の声を聞くようにと発言をしています。でもどうも響かない。なぜ今日こんなに少ないのかというのが気になりますけど、少ないとホッ

とするじゃなくて、これで市民の声を聞いたことになるだろうかと振り返ってもらいたいと思うんです。市長もね、市長さんよく言われてた。みなさんの声を聞いて直すところは直すんだと。みなさんの声を聞いてというところが出来てないじゃないかと。

三つ目のおかしな点は明らかな準備不足、これは保護者の方が気にかかっている、問うけれどもちゃんと返事が得られない、8月2日に市議会の全員評議会というものがあまして、議員さん全員に対して市教委が計画素案を説明したんですが、ほとんど答えられなかったんです。印象的だったのが、みなさんの言われる徒歩通学の2キロが3キロになったのはなぜなのかという、その時に初めて体力作りという返答をされたのが教育次長です。なんとという返事をするんだと、あきれました。普通の人にはみんなあきれと思います。体力作りですよ。暑い中、寒い中、今日のように激しい雨の降る中、体力作りで歩けと言うんです。1年生になって重いランドセルを背負い、歩いて行きます。私は教員をしていたからよくわかるんですが、子どもたちはランドセルだけではおさまらないです。ひどいときは両手に荷物を持って歩きます。それを体力作りといえそうです、確かに。しかしそれは体を壊しますよ。もう一つおもしろいと思ったのは、実は検討委員会に検討してもらう前に、複式をなんとかつぶしたいという思いが強かったのでしょうか、推計を、子どもたちの数はこうなるんだという、そんな先のことまで見当が付くのかということまで最初に出されたんです。ずっと先までやって、それでこんなに減るんだからということを利用して、検討を始めるということを求めたわけですが、私は最後まで疑問だったのでものすごく気になったのですが、玉野市は複式になっちゃうの、玉野市は複式になるというデータが比較的早く出たので。ところが素案になるとその資料は完全にすり替わっている。複式にならないんです。だから検討委員さんにご苦労様なことに、誤った資料を出されてそれで検討して、それは早く進めなければいけないというふうに思われていた。9月10日から13日の9月議会に私はいくつか傍聴にいったのですが、赤松議員さんが、進め方に違和感があると言っていました。計画はあくまで素案で決定ではないだろうと。12月の総務文教委員会で自分たちが論議してそれから計画案が出る、おかしいと。説明会はそれからしないといけないうと。議員さんとしてのプライドをかけた発言だったと思うんですが、教育長の答弁は、幹が変わるのなら改めて説明会をしますと。枝葉なら修正してそのまま進めますと言われました。この言い方は何度も教育長はお使いになったから覚えているかと思いますが、小崎議員、牧野議員、細川議員らの熱のこもった、立ち止まって、白紙に戻してなどの答弁には、教育長はいわゆるテープレコーダー答弁。それ以外何も言えないんですね。10人の議員が、学校統廃合関係の質問に参加したのですが、19人中10人です。忘れてならないのは、学童保育がどうなるのかとても心配している、高原議員の質問です。今日語られませんが、学童保育はどうかかわりかわからないです。実は彼らもわけわからないから、自分たちで考えるとは言わない。こどもみらい課に考えさせる。しかしどうしても学童保育は部屋をどうするか、いろいろな問題がずいぶん出てくると思う。そのことに注目している高原議員さんはとても偉いと思いました。だから、特別支援教諭や不登校の問題を気にかける牧野議員、これも未だにきちとした答弁がない。あんまり考えてないんじゃないかな。私、退職前の2年間特別支援学級というものを担当しましたが、こどもの状況大変ですよ、家庭ぐるみで大変なんです。それを大きく集めてどうするのでしょうか。そんなところはあんまり言わない、切磋琢磨で東大でもいこうかという子どもをどれだけ作るかということが頭にあるんじゃないかな。

四つめのおかしな点、先ほどの方も言われた、教職員が減るでしょう。あの方は学校の先生も増えると言われましたが、それはまとまって大きくなったところだけです。教職員のリストラと言っても過言では無い。職員室の減少がどんな規模になるか。たとえば一般の教諭、普通に担任持つような先生は小学校で51人、中学校で34人減ります。統廃合なしでいった場合と、統廃合を完遂していった場合、担任したり授業をしたりする

先生 85 人減るんですよ。大変な数じゃないですか。保健の先生は全部で 12 人減ります。事務さんも 12 人減ります。校長と教頭もそれぞれの学校にいますから、全部で 24 人減ります。教頭目指して校長目指してあった席が 24 減らされる訳です。大変なことだとは思いますが、ここまで県費、県から費用が出ている方で、133 名おられます。ところが学校には、市から給料をもらっている人がちゃんとして、一緒に私も働いていました。司書さん、用務員さん、全部で 24 人減ります。ここまで合わせて 157 人います。さらに市教諭が加配というかたちで配置している教諭が、非常勤というかたちの数は私には十分把握していません。これらを加えると、もしかすると 200 人くらいになるかも、大リストラですよ。フナイ電機が今 2,000 人リストラですよ。私たちのこの小さな市で 200 人リストラですよ。この数字は私のねつ造ではなくて、教育総務課に電話をかけて、どんな人数になるのかと質問をして出た答えです。それで作った数なんです。いわば合作です。この先この人たちは玉野市内へいろいろ帰っていく人もあるだろうけど、人事交流とかで解消していけるのでしょうか。いけると言われる方もいらっしゃると思いますが、そういうことが本当に出来るのでしょうか。学校教育課長大変ですね、やめられませんよ。こんな理不尽なことをどう対処していくのでしょうか。私はこの計画を推進したみんなに相応の責任をおってほしい。とりわけ責任のある方には最後の一人の身の振り方がちゃんと決するまでは、現職辞めずにそこで最後まで責任をとって欲しい。と言われても市長はもし選挙に落ちたらなくなっちゃうわけですよ。その他のいわゆる職員さんたちは見事な後始末をしてもらいたい。がんばってください。

最後になりますが、私が懸念しているのは、今回の計画は実は公共の施設をどうするのかということにかかっていると思うんです。総務省が 2014 年、公共施設適正化計画を作れと自治体に求めました。さらにのべ床面積の数値で昨年の表を出せと言われ、玉野市は全国でもめずらしいと思うのですが、のべ床面積 36%を削減するという計画を作りました。どこの公共施設で 36%も削減が出来るのか、一番狙われるのは学校、一番面積が広いのは学校施設なんです。統廃合でなんだかんだと消していけば目標達成に近づけるのかなというのがどうしてもあるのかなと思ってしまいます。この学校統廃合を巡ってよく言われるのは、廃校の跡地利用です。そしたら地域のためとか防災関係のうんぬんとかと並んで必ず言われているのが、民間活用です。活用といたらいいことみたいですよ。でもこの民間活用という言葉をなんのためらいもなく使っている言葉ではないと思います。私たちの税金で建てられた公共物を民間の金儲けにゆだねる、そういうことなんです。そんなこと私たちはいつ決めたの、これはこれで市民を主人公にしてきちっと検討し決めていかなければいけないことだと思うのですが、いつの間にか地方自治は国に絡め取られてしまっている。まとめます、教育長は幹がだめならと言われました。枝葉だったら直す。枝葉の問題はほとんど解決されていません。ただ幹はどうなっているか、子どもの幸せを守って行くんだという幹はゆらいでないですか。今もうすでにぐらぐらと揺れていると思います。そして幹の下には根っこがあります。市民の総意で市政を進める。という根っこさえ危ういんです。だから、弱めに発言された子育て中のお母さん、玉野には子どもが産める病院も無い。大変なことですよ。これだけ学校の統廃合の大きな取り組みをするよりも産科を一つ作る方がよっぽど市民の願いに応えていると思います。地域の願いと、学校統廃合の取り組みは大きく乖離している。そのことをよく考え考え直してください。市長考え直してください。大人の都合で子どもたちをいじめないでください。

参加者 8 : 今日、想像通り反対の方が多いので、敢えてみなさんを敵に回してもいいです。保護者として賛成の保護者もたくさんいます。私もこの計画に賛成です。ですので、みなさんの周りには反対の方も多いかと思いますが、賛成の方もたくさんいます。だから今日のこの会のみなさんの意見が市民の意見ではないです。それだけ言わせてください。

参加者 9 : 私の意見は、いわゆる教師、学校の先生たちの意見がこの場で全然のっていない。確かに今勤めていらし

てクビになったりすれば損する先生もあるかもしれない。昔の先生よりも今の先生はどのように考えているのか、その先生たちは統合の件についてどのように思っているのか。学校の先生の意見がちよっとでもあればよかったんじゃないかと思います。確かに保護者の方、子どもを預ける方っていうのは大変ですけども、学校の先生、先生の質とか出てましたが、今更言ってもしょうがないでしょ。県が採用するのだから。

事務局：教員の意見ですが、中学校長会から要望書をいただいております。再編の方を進めてもらいたいという意見をいただいております。また、適正規模の検討委員のアンケートを教職員の方にもらせていただいております。複数学級の方が望ましいという意見をいただいております。

教育長：本日も様々なご意見をいただきました。その中で教職員のリストラというご発言がありました。市内には正規職員と非正規職員の教員がおります。

正規職員に限って言えば、県費が393名、市費が4名となっています。市内の勤めている学校の先生方は岡山教育事務所管内の職員ですので、リストラということはまずありません。市外へ勤務先が変わるということになります。

ただ、市費でお願いしている非常勤の先生方については、学校の数がもし減れば、それだけ配置も減るということもありますが、そこは誠心誠意、次の働き場所であったり、本人の希望を聞いて対応したいと考えています。

それと、公共施設を減らすためにという発言もありましたが、決してそういうことではありません。本当にこれから児童生徒がぐっと減っていく中で、本当にこの問題を先延ばしにしているのかということで、我々は素案を作らせていただきました。

ですが、地域や保護者の皆様から様々なご意見をいただきました。7地域を終えて、これで8回目です。いただいた意見を教育委員会で検討・協議させていただいて、また修正したものをお示しさせていただきたいと考えております。